

# 平成 29 年度公益財団法人網走監獄保存財団事業計画

## 基本方針

政府は、「観光は我が国の力強い経済を取り戻すための極めて重要な成長分野である」と位置付け、2020 年に訪日観光客 4000 万人を超えることを目標に据えております。2016 年の訪日観光客は、2400 万人を超え、内、約 700 万人が道内を訪れており 4 年連続で過去最高を更新しております。が、道内を訪れる国内客は平成 11 年をピークに減少基調をたどっている現状であります。

平成 28 年度の当館の入館者数は、鈴木前理事長以下役職員並びに関係各位のご尽力により 2 件 8 棟が国の重要文化財に指定された事や施設整備の充実が図られてまいりましたが、度重なる爆弾低気圧による災害、曜日並びなどの影響でインバンドに付きましては増加傾向にあるものの、国内、道内客の大幅な減少で前年対比 3,7%の減少(2 月末現在)となっております。この様な現状を踏まえ、平成 29 年度の入館者の目標を 22 万人として各種の事業を展開してまいります。

### 1 「重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る」ために

重要文化財 2 件 8 棟の耐震専門診断(構造調査・地盤調査・構造診断)を行います。また、防災体制の確立に取り組みます。

### 2 「充実した博物館の運営を図る」ために

ワークショップ並びに看守長屋の年中行事など社会教育事業を進めてまいります。また、本年が博物館開館 35 周年を迎えることから企画展・特別展を実施します。訪日観光客を迎えるための母国語による展示解説・ホームページなどの多言語化事業を推進します。

### 3 「文化財建造物の維持保全、館内整備と固定資産の取得」について

来館者の安全を第一に、冬季園路凍結対策並びに段差解消スロープ等の改修を行います。また、導入から 6 年目となる入場管理 POS 基幹サーバーをクラウド化するにあたり、海外入館者の利便性向上を目的にクレジットカード対応を取り入れます。

### 4 「経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化」のために

訪日外国人誘致のために、網走市並びに観光関連団体との海外プロモーションに参画します。旅行情報誌等を利用して施設広報を行います。

また、本年 2 月 1 日にリニューアルオープンした監獄食堂並びに庁舎のミュージアムショップに付きましては、来館者に喜ばれるメニューや品揃えに取り組んでまいります。

以上、当財団の運営の安定を図るために入館者の増と収益事業の強化とあわせ、経費の節減に引き続き取り組んでまいります。

## 1 重要文化財の保存と価値観を高める活用を図る

平成 28 年 2 月 9 日博物館網走監獄において保存公開している建造物の 2 件 8 棟が国の重要文化財に指定され 1 年が経過し博物館も開館から 35 年という節目の年にあたります。これからも将来にわたり貴重な国民共有の歴史的資産を守り続けるため、網走監獄重要文化財耐震専門診断事業を実施し、予知できない震災に備え木造建造物の耐震補強並びに防災計画に着手してまいります。

- (1) 建築から 100 年以上を経た木造建造物は、現在の建築基準法の基準を満たしておらず、地震をはじめとする自然災害に弱い弱点があります。しかしながら不特定多数の方にご見学頂く施設として、重要文化財の耐震補強を実施する責任が生じてまいりました。因って、今年度より 3 年間をかけて、博物館として歴史的建造物の外観現状を確保しながら耐震補強計画作成を進めてまいります。補強計画作成にあたりまず耐震専門診断が必要となります。

初年度は、8 棟の重要文化財の構造調査、地盤調査、構造診断を行います。実施に際し重要文化財調査修復事業を主に手がけている文化財保存技術研究協会に依頼してまいります。

なお、3 ケ年間の全体予算額は、約 6 千 2 百万円です。費用の二分の一が国から交付されます。平成 28 年度において国に申請しておりましたところ、平成 29 年 6 月交付との内示を頂いておりますので、契約並びに基本方針を取り纏め実施してまいります。

- (2) 重要文化財の維持にかかる防災体制の確立に取り組み、網走消防署にご協力を仰ぎ防災計画作成と文化財防火デーなどに防災訓練の実施、防災設備の拡充と専門業者による火災報知機、消火ポンプなど定期点検を行って文化財を守る意識を高めてまいります。

## 2 充実した博物館の運営を図る

平成 29 年度日本への訪日外国人数は 2403 万人を超え、過去最高を記録しております。当館の訪日外国人観光客も 26,000 人(2 月末現在)を超える方々が来館され有料入館者数に占める割合は 13%になっている現状です。訪日外国人が各地の博物館を訪れる割合も年々増加傾向にあります。日本的な文化風習に触れるなら博物館へという新たな流れが定着しつつあります。

しかしながら、訪日外国人のリピータ率が増えている観光地においては、単なる日本文化の見学ではなく、その土地でしか味わえない体験、その時期しか見ることのできない自然景観と、より深く濃い体験へ、特別なものを求めるニーズが増えつつあるのも現状です。

SNS で瞬時に情報が拡散する時勢では、個人しか知りえないもの、他の物が知りえないものをいち早く発信する生活スタイルになっております。

これは外国人だけでなく、国内においても同様であり、展示を見て、触れて味わえるだけでは特別なことではなくなっております。

特に当館のような建造物歴史系博物館は、展示変えすることが困難なため、魅力あるソフト事業を展開することが不可欠だと思われれます。

国際化の波と、情報化時代に向けて、ユニバーサルミュージアムへの対応整備を続けることが充実した博物館、指示される博物館への第一歩です。

そのためには、言葉による障壁を取り除く、展示解説、ホームページなど多言語化事業を積極的に進めます。

一方で、社会教育施設として博物館を身近に利用活用いただくため、網走市民向けの教育普及講座、レファレンスサービス、学校利用による体験講座の充実に取り組み、生涯学習施設として多くの方が物や文化と繋がるよう検討してまいります。日本の博物館利用者総数は 2 億 9 千万人と言われる現在においても、単なる古い物を見学する場所という固定観念の方が多く、博物館の取り巻く環境は好転の兆しがない中、公益財団法人が運営する博物館として網走地方の「知」を集積し「文化」を生み出し「歴史遺産」を継承していくこと地域情報を牽引できる博物館運営を目指してまいります。

### (1) 博物館社会教育事業

新年度の物作り体験講座は、日本人が自らの手を駆使して行っている物作りに注目し、過去から伝わる職人技をテーマに企画しました。春の体験講座「藁で草履を編み履いてみよう」夏休み体験講座「炭を焼いてみよう」

「クラフト体験 財布作り」秋の自然体験講座「山ぶどうを染めてみよう」クリスマス体験講座「粘土を焼いてスノードーム作り」冬の体験講座「金工体験」「紙すみ体験」など8講座を通じて子供から大人まで楽しめるメニューで講座を開催します。

長期連続講座として、網走刑務所の特徴である農業を主体に農園体験ワークショップを5月から12月まで8回にわたり開催し、植え付けから収穫体験、調理実習、加工食品作り、かぼちゃを利用したハロウィンランタン作りと一連の講座を通じて地産地消を学び、二見湖畔神社収穫祭へと繋げてまいります。

「看守長屋の年中行事」は、網走刑務所職員官舎を会場に、薄れ掛けている日本の古き伝統行事を博物館に訪れる全ての人対象に体感させるものであり、春のひな祭り、五月の節句、夏の七夕、秋の十五夜、正月準備、正月七草、鏡開き、節分と8回の伝統行事を通じて季節の移ろいと日本人の知恵を感じさせるイベントで誰でも参加可能な形式にいたします。七夕や節分は外国人に好評ですので、外国人の印象に残る伝統行事となるよう表現したいと思います。

ゴールデンウィーク、秋のシルバーデーに実施するイベントは、国内家族旅行のお客様の占める割合が多いため、子供の日にちなみ、餅つきとかしわ餅のプレゼント、むかし遊び、竹トンボ、竹笛などの伝統遊具作り、重要文化財スタンプラリー、豆わらじストラップ作り、二見湖畔神社収穫祭には網走刑務所の三眺神輿を網走無窮会の皆様に担いでもらいます。子供神輿の担ぎ体験や獅子舞などお祭りを賑やかしく演出します。また博物館開館35年企画展連動イベントとして明治の文豪が愛した食 文明開化の食フェアを収穫祭にて実施します。網走監獄での思い出が鮮明に残るような「博物館で初めての体験」「博物館で感動」をコンセプトに教育普及事業を進めてまいります。

## (2) 企画展の開催

歴史館の特別展示スペースに、5月～6月30日まで「網走刑務所の畜産作業」展を開催します。刑務所の作業として行っている和牛飼育においてA5ランクが出荷されており、監獄和牛として人気を博している現状であるため、網走刑務所の畜産作業の歴史と資料を展示する企画展です。

7月から12月まで博物館開館35年特別展「博物館明治村に見る 文明開化と明治建築の魅力」展を開催いたします。奇しくも今年は明治の始まりから150年にあたり、明治村においても、明治村の重要文化財展を開催しているため、建築資料だけでなく、明治時代の衣装、生活用具などもおかりして、明治時代を体感できる企画展といたします。この企画展に合わせて、記

念講演会を実施し、博物館明治村から学芸員を招聘します。

### (3) 博物館網走監獄友の会

友の会は、監獄の歴史に興味のある方、博物館に興味のある方並びに博物館を支えるサポーターとして会員を募り発足から 10 年を向えます。現在 43 名の個人会員と 11 の団体会員が入会されています。新年度も引き続き、博物館でのボランティア活動を通じて生涯学習を实践する場として、会員の得意分野を活かし達成感のあるボランティア活動となるよう、展示解説活動、イベントスタッフ、冬の雪像作りなどの支援を頂きます。

また、二見桜並木の植樹、中央道路開削慰霊碑の清掃活動、友の会博物館紀行バスツアー、企画展展示解説会なども合わせて企画し、会員自らが楽しみながら生涯学習の裾野を広げることのできる友の会活動を進めてまいります。

### (4) 多言語化事業

訪日外国人の入館者数が 26000 人を超える現状において、日本の来館者と同様に博物館の情報をホームページで閲覧できるように、英語、繁体字、簡体字、ハングル、タイ語の 5 ケ国語を追加制作いたします。

また、今年度においては、浴場、二見ヶ岡施設、鏡橋の説明看板についても多言語化し、LED 内蔵照明のものに更新し、順次翌年以降も進めてまいります。

### 3 文化財建造物の維持保全、館内整備と固定資産の取得

平成 28 年 2 月の重要文化財指定を受け、館内の旧網走監獄、旧網走刑務所建造物重文 2 件 8 棟、そして 6 棟の登録有形文化財を国民共有の文化資産として維持保全していく所有者責任が生まれました。管理対策と防災能力を高める努力を進めてまいります。

館内整備はまず博物館来館者の安全対策を優先して施設を再点検し、必要な箇所から対策を実施、多様化する入館者に対応できる「人にやさしい博物館」として施設のユニバーサル化に努めます。

- (1) 危険箇所の整備 28 年に取り組んだ基本計画に基づき、館内園路の舎房浴場間部分 330 m<sup>2</sup>の舗装改修を実施します。冬期間の滑り止め、夏期間の排水能力に優れたインターロッキング舗装を採用し斜面部分の安全対策とします。建物入り口部分にコンクリート製階段・スロープがある裁判所棟、教誨堂はゴムチップマット敷設による安全対策を施工します。木製階段普及箇所のコンクリート置換え作業や建物内の段差解消用スロープ改修等、登場しやすい園路の補修等、来館者の安全確保を第一義に細かな対策を進めます。
- (2) 再現構築物維持 木造再現構築物木製独居房 2 棟及び看守長屋、浴場等の基礎周りや木製建具など普及が見受けられる箇所の補修を実施します。
- (3) 防災対策事業 設置から 30 年以上を経過し保守点検により更新を求められた受電設備の一部及び給電配線を改修します。海外からの入館者対策として非常放送の外国語音源(日本語以外に 4 言語想定)を制作します。総合消防訓練実施に備え、職員用保安帽、作業用皮手袋、非常用貸与品などを整備します。耐用年数を超過する消火器更新を行います。
- (4) 館内景観整備事業 整備に着手して 5 年、次第に姿を整えてきている宿根草植栽による景観整備を地域のフラワーマスター事業との連携も考慮しながら継続して進めます。園地内の除草、樹木の維持作業、冬期間の駐車場除雪は外部業者への委託事業とし効率よい管理を行います。

## 4 経営の安定を図るため入館者の確保と収益事業の強化

### 1. 入館者の確保

当財団は、設立の経緯から自主自立の経営を進めてまいりました。今後もその精神を引き継ぎ、公益事業の健全な運営を継続していくためには、入館者の確保は必要不可欠な課題であります。

入館者誘致活動としては、堅調な個人型入館者確保を継続するためインターネット、SNSの活用、全国販売型旅行情報誌への広告掲載などによる情報発信を行うと共に、団体、修学旅行誘致を目的に航空会社や旅行代理店への渉外活動を引き続き進めてまいります。

海外観光客誘致活動は、近年急激に増加している個人型観光客(FIT)確保を目的に受け入れ態勢の整備、情報発信、誘致キャンペーンへの参加等、現況に応じたスピーディーな対策を進めます。

以上を目的に入館者確保策として次の事業を進めてまいります。

- (1) 昨年 8 月の道東地区の大雨被害の影響等による観光客減少傾向から未だ完全に脱却した状況になく新年度の有料入館者の目標を 22 万人(前年度見込み比 3.1%増)とし、入館料収入を 198 百万円(前年度見込み比 3.1%増)とします。
- (2) 入館管理 POS システムのクラウド化を行いデータの安全管理を進めると共に 海外誘致対策としても有効なクレジット決済機能を追加導入します。
- (3) 海外誘致対策として次の事業をすすめてまいります。
  - ① 受入れ体制整備として受付窓口の入館料金、注意書き等の表示に外国語(英文、中文を予定)を付加したものに更新するなど館内表示の見直しを進めます。冬期間、園地内に雪像や流氷、雪のすべり台を設置し冬遊びを体験できるコーナーを造成します。
  - ② 博物館公式ホームページの外国語版をスマートフォン等のモバイル端末からの閲覧対応が可能なものとし、掲載情報を刷新するリニューアルを行います。現在の英文・中文簡体字・中文繁体字・ハングルに、近年入館増加が著しいタイ語表示を付加します。
  - ③ 網走市、観光協会、地域連携団体等の実施する海外誘致キャンペーンへの参加、当館独自の海外渉外活動(香港、台湾での旅行代理店、航空会社訪問)を行います。道東 3 空港への定期便開設、チャーター便誘致要望に地域と連携して取り組みます。

- (4) 入館者誘致を目的とする情報発信手段として公式ホームページの情報更新頻度を高めるなどインターネット・SNSの活用を推進します。広告掲載は販売数の多い全国販売型旅行雑誌に集中を図り、広報予算の効率的支出を進めます。
- (5) 修学旅行、団体型観光客誘致を目的とした旅行代理店への渉外活動は、地域連携の誘致キャンペーンに参加するほか人口集中地(首都圏、関西等)への送客先訪問を実施します。
- (6) テレビ・雑誌等の取材に丁寧に対応し、映画、ドラマ、PV撮影等も積極的に受け入れ、漫画や文芸作品の制作協力を行うことにより施設のマスコミへの露出頻度を高めます。地元報道機関への館内行事等の情報発信を木目細やかに行い、連携を深める等、様々な手段で施設への興味を高めてもらう努力を続けます。

## 2. 収益事業の強化

入館者確保が困難になりつつある現況下、当財団の公益事業会計、法人会計を健全に運営継続させるための収入補てんを行うため収益事業会計の運営は細かな対策を積み重ねて増収対策を進めてまいります。

食堂事業は28年度、食堂棟新築事業が完成し2月より営業を再開したところですが運営方法再検討や新メニュー開発など利用増加対策を進めます。

物販事業はミュージアムショップに併設した喫茶コーナーのメニュー充実や取扱商品の再検討、クレジット決済導入など売り上げ増加対策に継続して取り組みます。

- (1) 物販、食堂、賃貸料収入による収益事業会計の収入目標を58,250千円(前年度予算費7.9%増)とします。
- (2) 物販事業は、好調な喫茶コーナーのメニューの充実、取扱商品の再検討を進めるほか、入館管理POSシステム更新に合わせた売上げ管理システム更新を行います。
- (3) 食堂事業は、新食堂棟完成に伴い地域の方の利用促進を目的とする広報対策や新メニュー開発、営業期間、営業時間の延長などを進め利用者増加を図ります。
- (4) 物産館賃貸事業は、テナント入居者との連携を密にし、当財団が所有する登録商標『網走監獄』を使用する新しい商品開発などを相互が健全な運営を行える環境整備を進めます。